

自走式ロボ

PC映像で操作

九州エレクトロニクスシステム 簡易な対話機能も



独自技術で圧縮して、操縦者のパソコンに無線LAN（構内情報通信網）を通じて送信する。操縦範囲はパソコンから半径二百メートル以内。パソコンをインターネットに接続すれば、ネットを介した遠隔操作も可能になる。上部にマイクも搭載して簡易な対話機能も備える。価格は百八十万円。初年度五千

【北九州】計測・制御機器開発の九州エレクトロニクスシステム（北九州市、松尾勝憲社長）は、遠隔操作が可能な自走式ロボットの試作機Ⅱ写真Ⅱを発売した。カメラで撮影した映像をパソコン画面上で視認しながら操縦できるのが特徴。ロボット開発を計画する機械メーカーや大学、研究機関などに売り込む。

新製品は「LS-Robobob LSR322HD」。横幅四十センチ、奥

行き四十センチ、高さ四百四十センチで重量は三十キログラム。センサーや専用サーバーを搭載した駆動部分と、周囲の様子を撮影するカメラ部分からなる。最速毎秒五十センチで前後左右に走行する。パソコン上で操作する。撮影した映像データを

て送信する。操縦範囲はパソコンから半径二百メートル以内。パソコンをインターネットに接続すれば、ネットを介した遠隔操作も可能になる。上部にマイクも搭載して簡易な対話機能も備える。価格は百八十万円。初年度五千

の販売を見込む。